

令和4年度 園評価書

園番号 49

園名

辻こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	評価者評価	園関係者評価員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心身ともに元氣な子	つなげよう! 楽しいを大好きへ	・夢中になって遊んでいる	自分のやってみたい遊びが見つけれられるようになり、「○○だからこうしたい」など主張する姿もあり、遊ぶ事を楽しんでいる。拠点の設定や一緒に素材にかかわり真似てみたり遊びに繋がるきっかけ作りをする事で、遊びへの意欲が活発になった。興味が移りやすい子や消極的な子への関りが難しく、手立てが十分ではなかった	B	A	子どもたちがよく動き、遊びを楽しんでいた。立ちすくんでいる子がおらず、子どもたちを観察して用意した素材や環境を使って、それらを子どもたちが工夫して利用し遊ぶ姿がとて楽しそうだった。異年齢が混ざり合い、関わっている様子も多い。子どもたちの姿から、職員がサポートできていることがよくわかった	遊びや楽しみ方を満喫できるよう見守ったり、手助けしたり、遊びの広がるきっかけ作りを行っていた。しかし、大半が遊びこんだり人や物など様々な関わりを楽しむ子がいる中で、遊びを転々とする子や楽しめているのか?と疑問を感じる姿もみられる。それぞれの遊びの楽しさがどこにあるのか、ひとりひとりの視点にたち、必要と思われる環境構成や手助けを考え、実施していく
		・関わり合って遊んでいる	様々な子に関わり、自らかかわろうとする子が増え、たくさんの人や物に囲まれ遊びを楽しむ姿が見られる。遊びに誘ったり興味をもって近づいたり、自分からかわろうとしている事が増えた。	A	A		
		・挨拶をしている	明るく声をかけることを続け、挨拶が交わされることが増えた。「ありがとう」や「いただきます」など言葉で伝えることの大切さを知らせたことで、言おうとする子が増えたように思う。	B	A		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	評価者評価	園関係者評価員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・発達の連続性を考慮し、発達や経験の差を理解・把握して適切な援助を行っている	月齢だけにとらわれず、子どもの様子や発達状況・経験の差を考慮し関わり方を話し合い、言葉かけや環境作りなど援助を実践した。	B	B	・学年の垣根がなく、異年齢の姿や行動を見ることが出来ていたり、憧れたり憧れられたりのやり取りがとて大事だと思う	活動内容や行事の制作など様々な計画をする際、月齢や発達状況を押さえ、前後の学年と育ちや活動内容を共有する
		・在園時間の違う子どもたちへの生活リズムの違いを踏まえ、安心して園生活が送れるようにする	登園時の視診を丁寧に行い、一人一人の保育時間やリズム、体調や気分に合わせて保育をした。クラス保育が続くので、玩具に変化をつけたり会話で寄り添うなど、楽しく過ごせるよう気を付けた。	B	B	・職員の行う手立ての加減がとて難しいと感じる。分かり易かったり便利だったりする世の中だけれど、想像性が豊かに育まれる遊びの時間を大切にしていきたいと思う	伝達を確実にしようと共に、在園時間の違いを踏まえ、遊び環境に変化をつけたり会話で寄り添ったり楽しく過ごせる工夫を行う
		(3)環境を通して行う教育及び保育	・子どもたちの「たのしかった」という思いをつなぐ環境構成を行っている	場所の保障をしたことで、それぞれが自分で考え選ぶ姿があった。とっておける様にするなどで、思いが繋がって遊ぶ事ができた。子どもの興味や楽しんでいる気持ち・様子を捉え、職員間で話し合い環境構成を改良した	A	A	・工夫された楽しい食育が出来ている
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・様々な場面を想定した避難訓練・不審者訓練を行い、状況に応じた行動がとれている	避難が必要な時、どうやって避難するのか・どんな行動が危ないか等、子どもも避難方法が身についている。違う状況への対応に関して、どう行動・判断したらいいかを常に問うように意識している。	A	A	・支援が必要な園児へのサポートをよく考えていることと思う	訓練・評価反省を丁寧に行い、課題を次回に活かして訓練を深める事ができた。子どもたちも保育教諭の様子を真似て、真剣に訓練に取り組み避難方法を身につけている。引き続き行っていく
		3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・年齢に合った生活習慣の自立に向け個人差を考慮しながら指導している ・食育活動を充実させ、食への関心を深めている	生活習慣…手洗い、うがいの必要性がわかり実施できている。月齢に応じた対応でやる気を引き出す声掛け（動作に「ゴソゴソ」等）をし、習慣づきように対応した。火災時の話からハンカチの持参が増えた。 食育…日常で食育活動の内容のつぶやきが聞こえる。印象に残る方法で実施できている。	B	A
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・一人一人の発達や特性を把握しその子に合った支援計画をたて支援を行うとともに、全職員が関わり援助している	サポートプランを複数担任で立てることで、話し合いがもてて支援に活かすことが出来た。サポートプランを活用した話し合いは少なかったが支援の仕方を訪ねたり、個への関りをもつよう自分から発信した	B	B	・ヒヤリハットや点検の周知は大切。周知や改善が行われぬうちに次の事故が起らないように、間があかない対応を行ってほしい	様々な職員のアドバイスをサポートプランに活かし、支援児の援助を行う。加配担当での話し合いを確保し支援を行っていくが、他の職員が担当者を支えていく姿勢をもつ様にする
5 組織運営	(1)組織体制の充実	・職員一人一人が自分の役割に責任をもつとともに、お互いに声をかけあい協力して教育・保育行っている	企画書を配置表に掲示することで共有しやすくなり、活動が進められた。大きな行事では、仕事分担や状況の見える化をし業務が遂行できた。常時分掌はやってほしいことを、他の人は動ける状態であることを発信する共有スペースがあるようにしていく。	B	B		仕事分担表や表示の位置が定まらないことで、周知がしきれないことがまだある。確認しやすい場所や方法を定め、より活用しやすくしていく
6 研 修	(1)研修体制の充実	・研修計画に基づいた研究保育や園内研修を行っている ・園外の研修に積極的に参加し、個人の専門性を高めている	園内外の研修に参加し自分の保育を客観視でき、みんなで保育する意識や専門性が高められた。学びを活用・実施出来た。話し合うことで他者の動きが見えたり、互いの保育を意識することに繋がった	A	A		定期的な打ち合わせが行えず、周知が不十分な事があった。時間・メンバー・報告方法などを見直し改善を行い、有意義な研修が積んでいけるようにする
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	・毎月の安全点検やヒヤリハットの検討を行い、常に安全な環境を心がけている	安全点検を行い、改善箇所など共有するようにしている。ヒヤリハットを配置表に貼り、直ぐに共有できるようにすることで、予防意識が高まった。	B	B		ヒヤリハットの報告・修繕や研修を行い、予防に努めていく。点検を様々な職員が行うことで、環境に意識を向ける機会を増やし危険を減らしていけるようにする
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・お便りや毎日のボード、遊びの様子を写真で紹介、保育参加会など、様々な機会を通して、子どもの成長の喜びや園理解が深まるようにしている	写真やつぶやきを多く取り入れ、子どもの様子が伝わりやすい工夫ができた。また、送迎時にはひとこと様子を話すことで、伝わる努力を行った。連絡ノートでも、様子が分かりやすい文章を心がけた	A	A		様々な機会の保護者への伝達的手段に、写真や動画を活用を広げている。より分かり易く伝える方法を考慮して試していく事を続けていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	・地域の小学校と交流し、情報の共有や連携を図っている ・近隣の園の公開保育に参加し、自園の教育・保育に活かしている	子ども同士の交流の機会を持つことが出来なかった。公開授業に参加し、自身の保育に取り入れられそうな事や押さえておいた方が良い事を確認し、実践する。	B	B		散歩で通ったり校庭で遊ばせてもらうなど、直に交流できずとも存在を確認し合える機会を持つ。公開保育に出向き様々な工夫や考え方を吸収し、試してみる
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・地域との交流を深め、地域のこども園としての理解信頼を得ている	現状でできる交流を行った。発信の場を持ち、地域の方との交流の様子や感謝を伝えることが出来た。	B	B		出来る触れ合いの機会を大切に。滞っている交流が再開できるかを双方で考慮し、少しずつ緩和に向け準備を行う